

最優秀賞

ラ・サール高等学校（鹿児島県） 2年

つかはら つねあき
塚原 常暉

あんさんが思つとるほど足下には何もなか、やけん前でも見て歩きんさい

バス停のおばさん

受験が近づくとどうしても不安からか頭が下を向いてしまう。塾から自宅へ帰るとき先日受けたテストがふるわず僕の頭も下を向いていた。

「元氣無かね」僕が帰るときにいつも玄関前に水をまいているおばさんに声をかけられた。正直言ってイラツときた。受験前で焦っていたためか好意からの声すらも煩わしく感じていた。明らかに不機嫌な顔を見せたのおばさんは話を続ける……「あんさんが思つとるほど足下には何もなか、やけん前でも見て歩きんさい」何も知らないはずなのに、何でも知っているように話す。軽くなった。

今では無事高校に入ることができ、もう二年が経とうとしている。大
学受験が見えてきた今、もう一度この言葉を思い出す。

受賞にあたって

中学2年の夏季講習の帰りでした。塾のクラス分け試験で降格してしまい、落ちこんで不安だった心に、「次がんばらばいいだけの話だ」と気付かせてくれました。志望校に合格できたのは、おばさんのおかげです。すごく感謝しています。小さい子が好きで、細かい作業が得意だから将来は小児外科を目指しています。つらいときは、この言葉を思い出して進んでいきたいです。